

**(2) 本会議意見の実施設計等への反映状況と
最近の国の動向について**

**第6回京都スタジアム(仮称)運営経営専門家会議
平成30年6月20日**

本会議で設計段階から考慮すべき事項として挙げた意見

2 収益が上がるスタジアムとするためには

スタジアムの観客数・利用者数を多くし、収入を多くしていく方策は次のとおり。
これらの方策について、スタジアムの設計段階から、管理運営を考慮して入念に検討していくこととする。

観客数・利用者数を多く

①使用料収入を多く
(チケット販売歩合料を多く)

[良質な観戦環境]

- ・ゼロタッチ、急傾斜のスタンド → 臨場感
- ・全観客席に屋根 → 快適性
- ・個席+テラス・ボックス席 → ゆったり感
- ・大型映像装置 → 楽しみ倍増
- ・良好な天然芝(日照・通風)

- ・京都サンガFCの好試合
- ・人気の高い試合の誘致

[良好なアクセス性]

- ・公共交通からのアクセスの良さ・柔軟なダイヤ等
- ・駐車場、臨時駐車場、パークアンドライド、直通バス他

[おいしい・温かい料理] [人気の高いグッズ]

- ・常設ブース、ケータリングカー

[多様な広告設置スペース]

- ・常設看板
- ・仮設看板
- ・LED看板

[にぎわい施設]

- ・展望レストラン、スポーツジム、エコロジー学習展示など

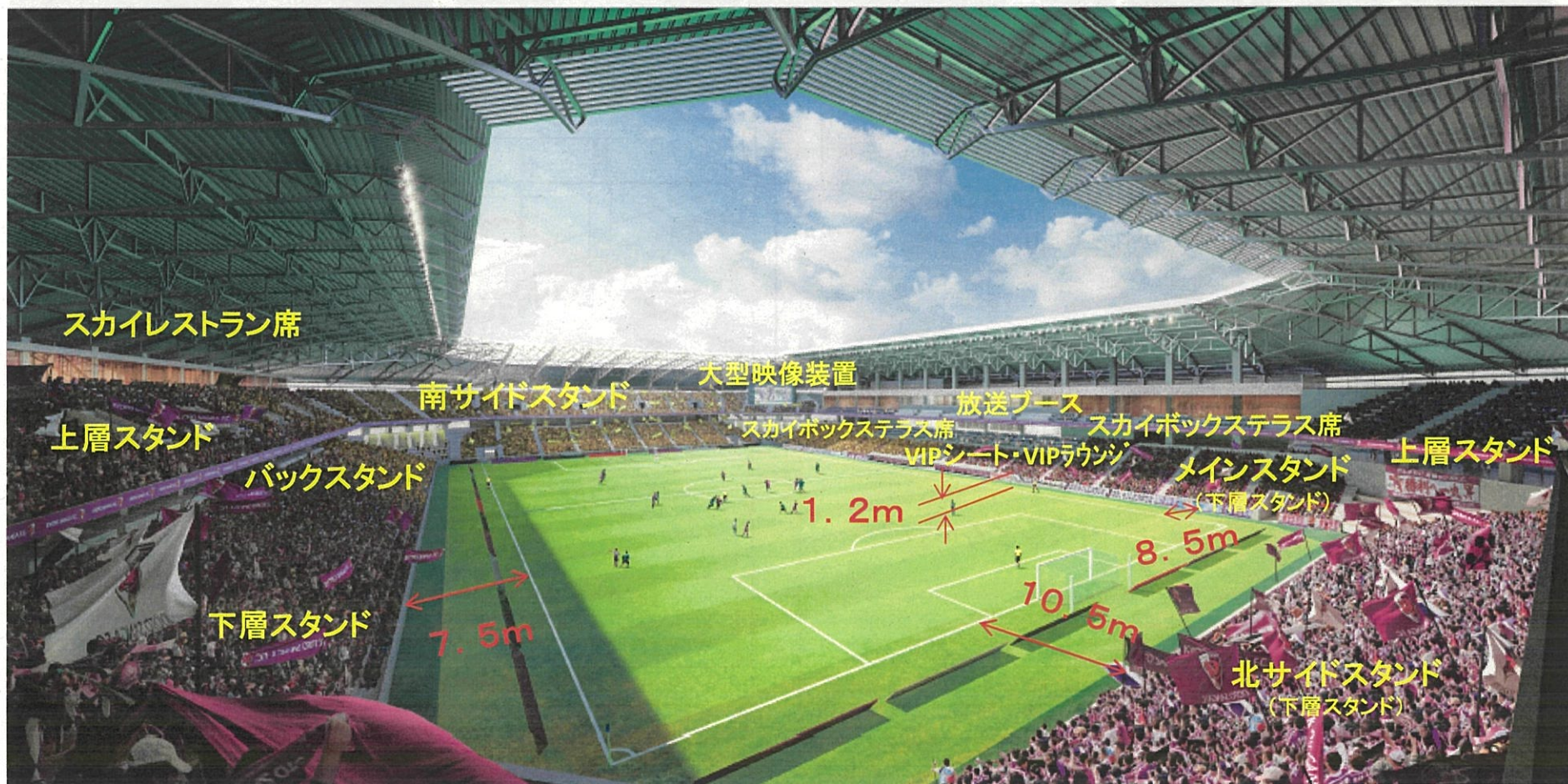
[柔軟な駐車場料金設定]

- ・試合の日と他の日で区分、パークアンドライドで活用等

設計段階から管理運営を考慮して入念に検討

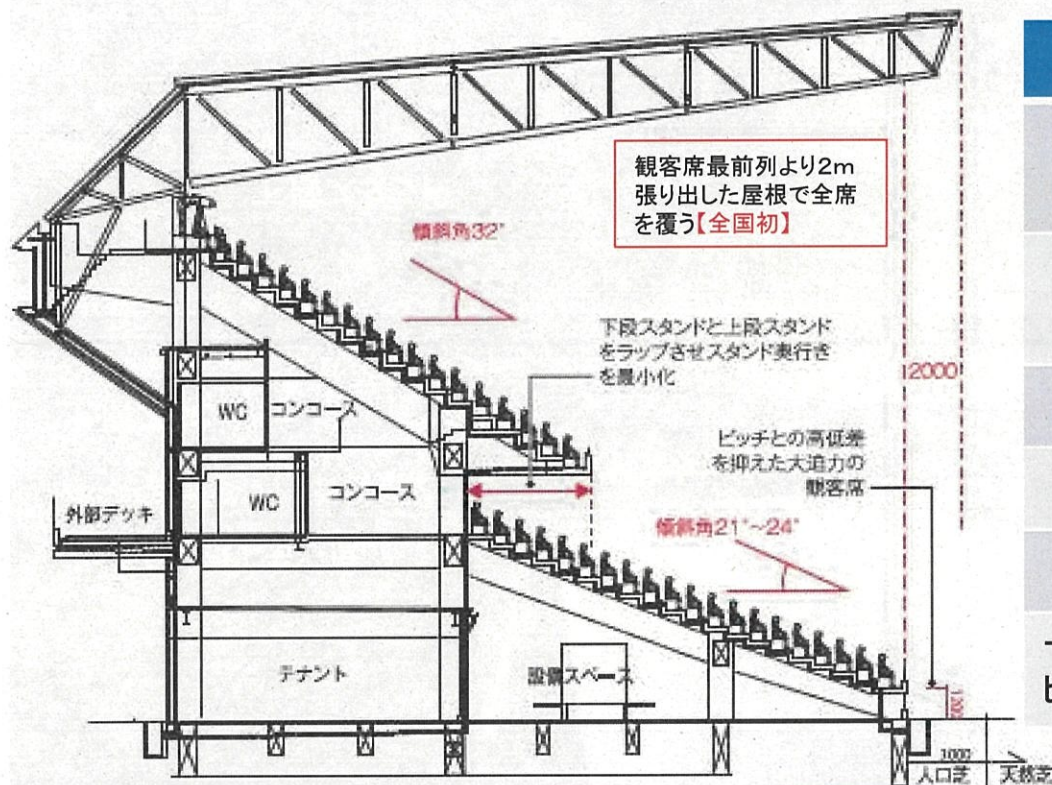
実施設計への反映（良質な観戦環境 その1）

ゼロタッチ、急傾斜のスタンド ⇒ 臨場感



実施設計への反映（良質な観戦環境 その2）

全観客席に屋根 ⇒ 快適性



	席数	備考
メインスタンド	3, 930	一般席、VIP、ビジネスシート、車椅子席
バックスタンド	6, 780	一般席、車椅子席、スカイシート
北サイドスタンド	5, 460	一般席
南サイドスタンド	5, 440	〃
計	21, 610	

一般席 47cm、VIP席 55cm、
ビジネスシート・スカイシート 50~55cm



バックスタンドスタンド側(上段)



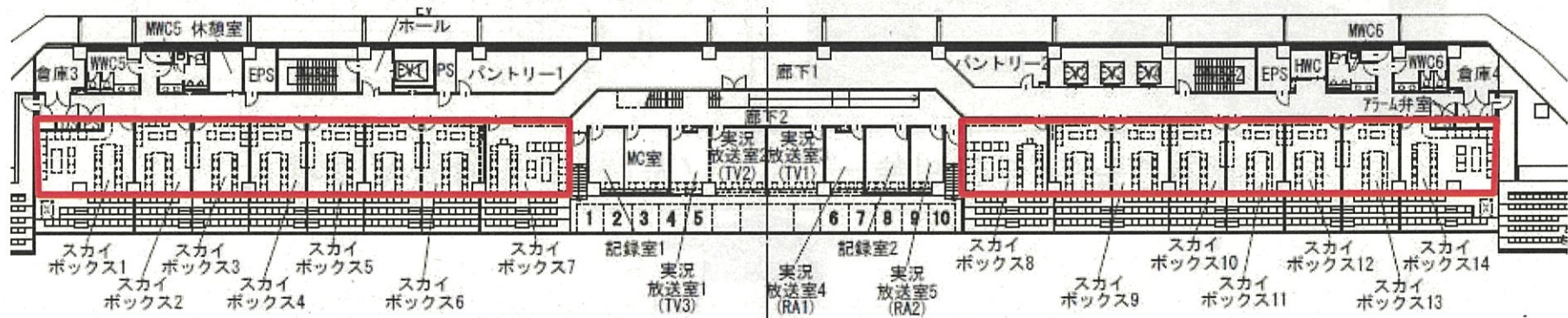
メインスタンド

一般席	VIP・VVIP席	ビジネスシート・スカイシート
 写真は吹田スタジアム	 写真は吹田スタジアム	 写真は吹田スタジアム

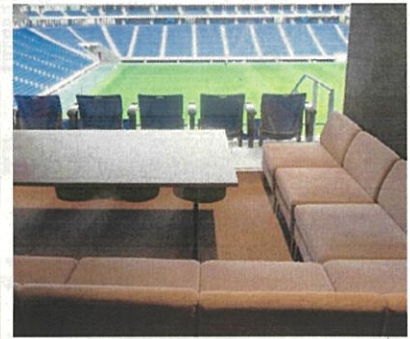
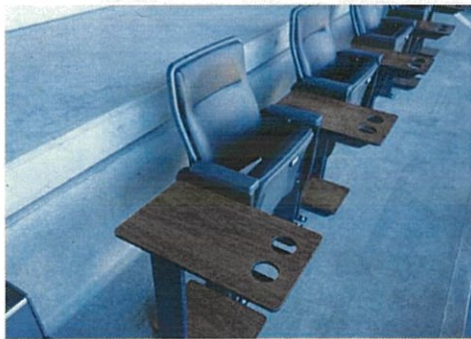
実施設計への反映 (良質な観戦環境 その3)

個室＋テラス席・ボックス席 ⇒ ゆったり感

メインスタンド 3階 スカイボックス 14室 (23㎡ 8室・33㎡ 4室・48㎡ 2室)



貸宴会・貸会議室(最大16室:1室当たり10名)



VIP席、VIP室及びラウンジ

ビジネスシート(個室付き)

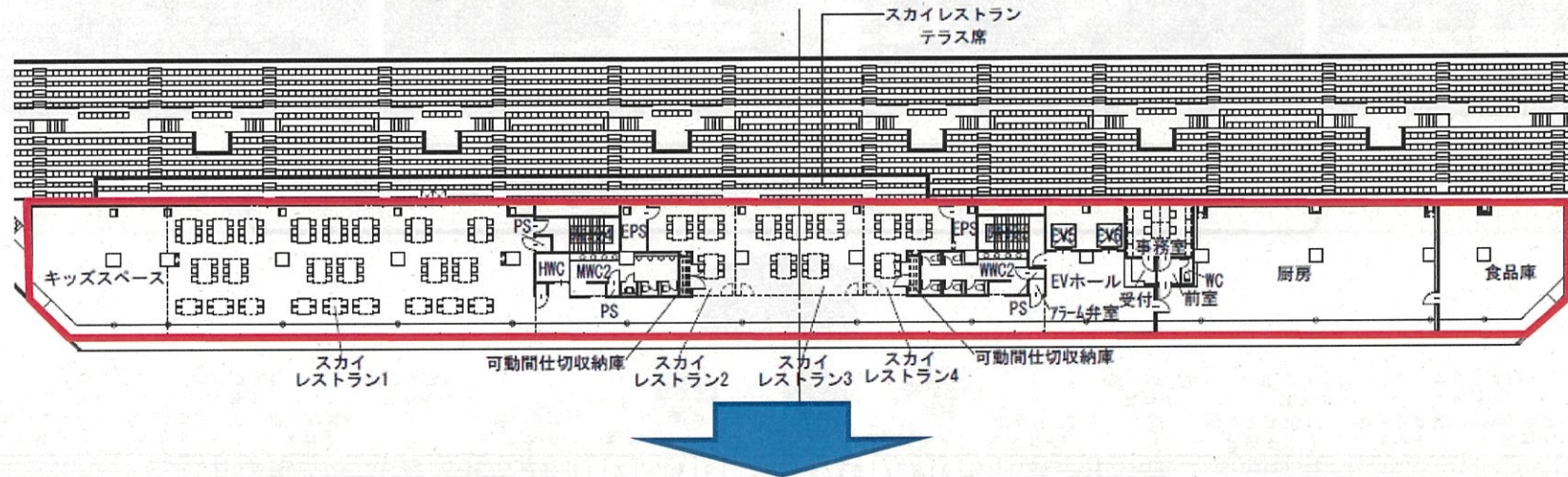
※写真は吹田スタジアム

実施設計への反映（良質な観戦環境 その4）

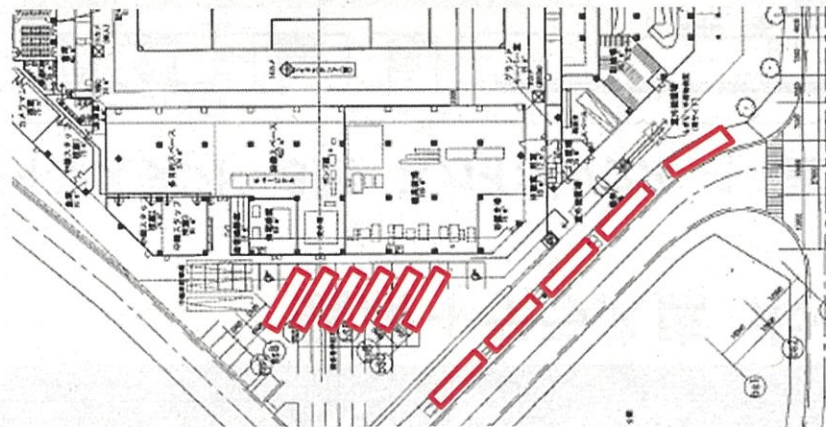
個室＋テラス席・ボックス席 ⇒ ゆったり感

メインスタンド 4階 スカイレストラン

（室内テーブル席：186人 キッズスペース：50人程度）



亀岡入込観光客・観光バスツアー等向けレストラン営業



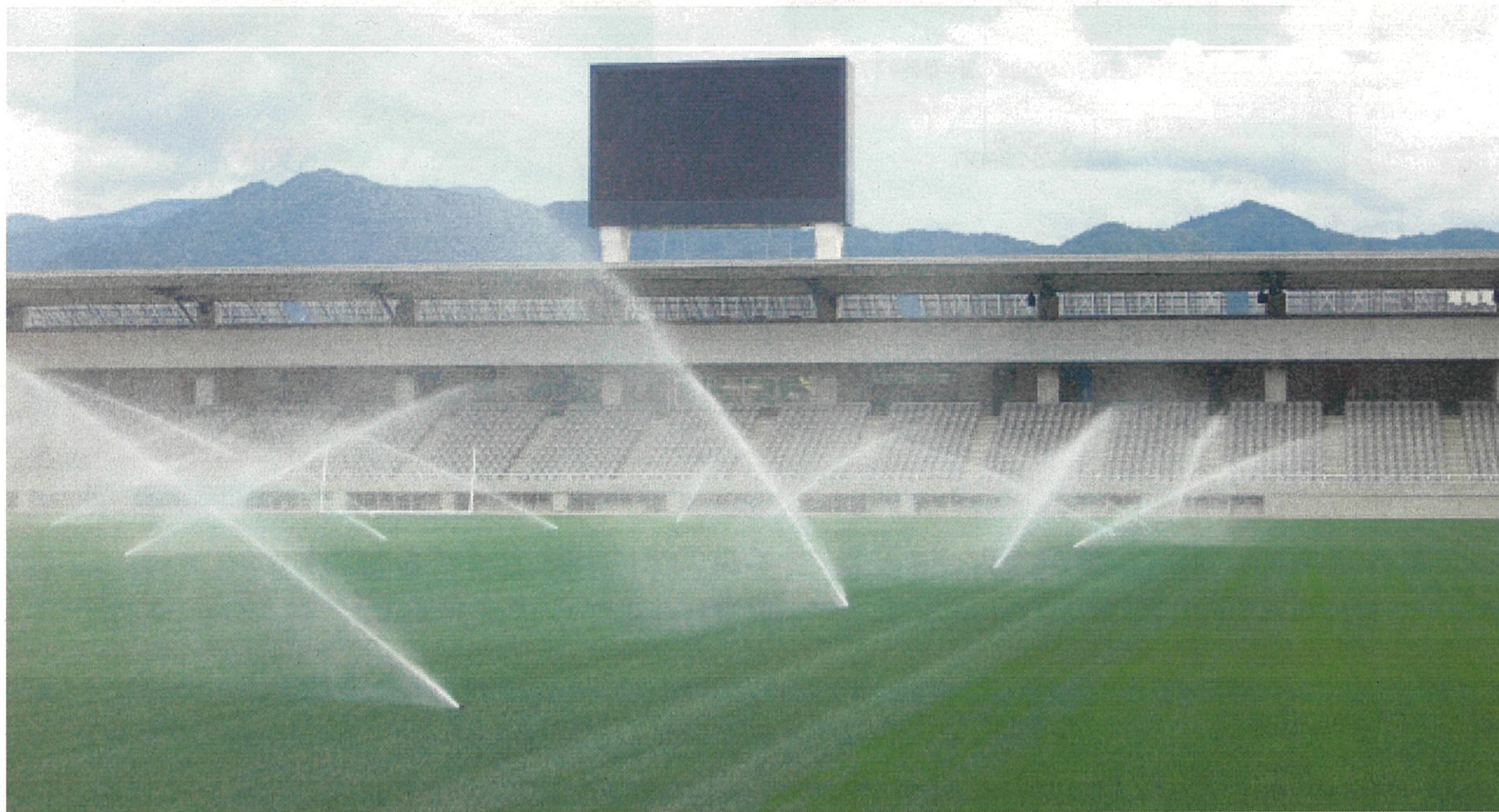
南サイドスタンド側駐車場 及び 駐車帯



実施設計への反映（良質な観戦環境 その5）

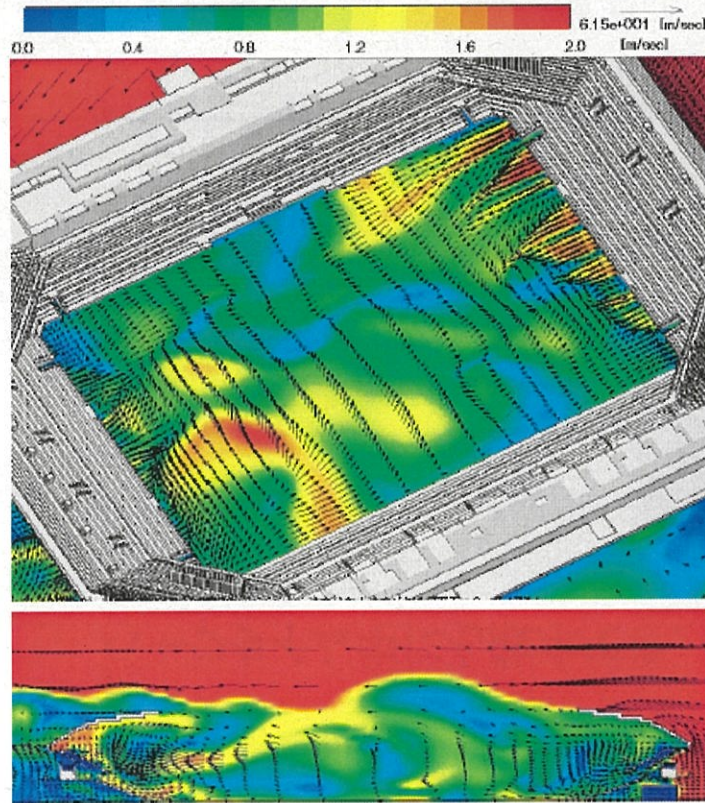
良好な天然芝（日照・通風・散水）

ハーフタイム中にも散水でき、夏場に涼感をもたらす一斉自動散水システム

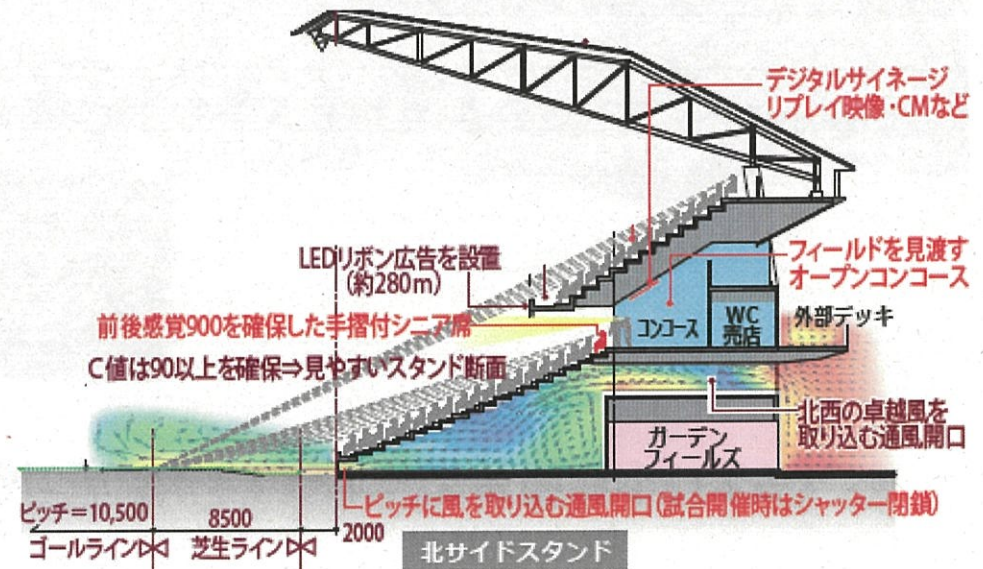


良好な天然芝（日照・通風・散水）

- 南サイドスタンドの屋根にガラス等の透過屋根材を使用
- スタンド下部にはピッチに風を取り込む風の道



ピッチ気流解析



実施設計への反映（良質な観戦環境 その7）

良好な天然芝（日照・通風・散水）

- 3品種の芝の育成状況について比較実証実験を実施
- 耐陰性、耐寒性に優れた品種を採用

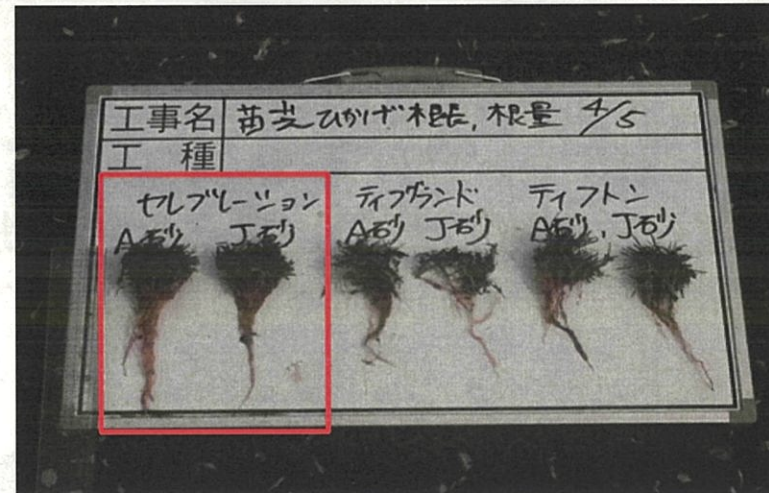
セレブレーション(新品種)



ティフランド(新品種)



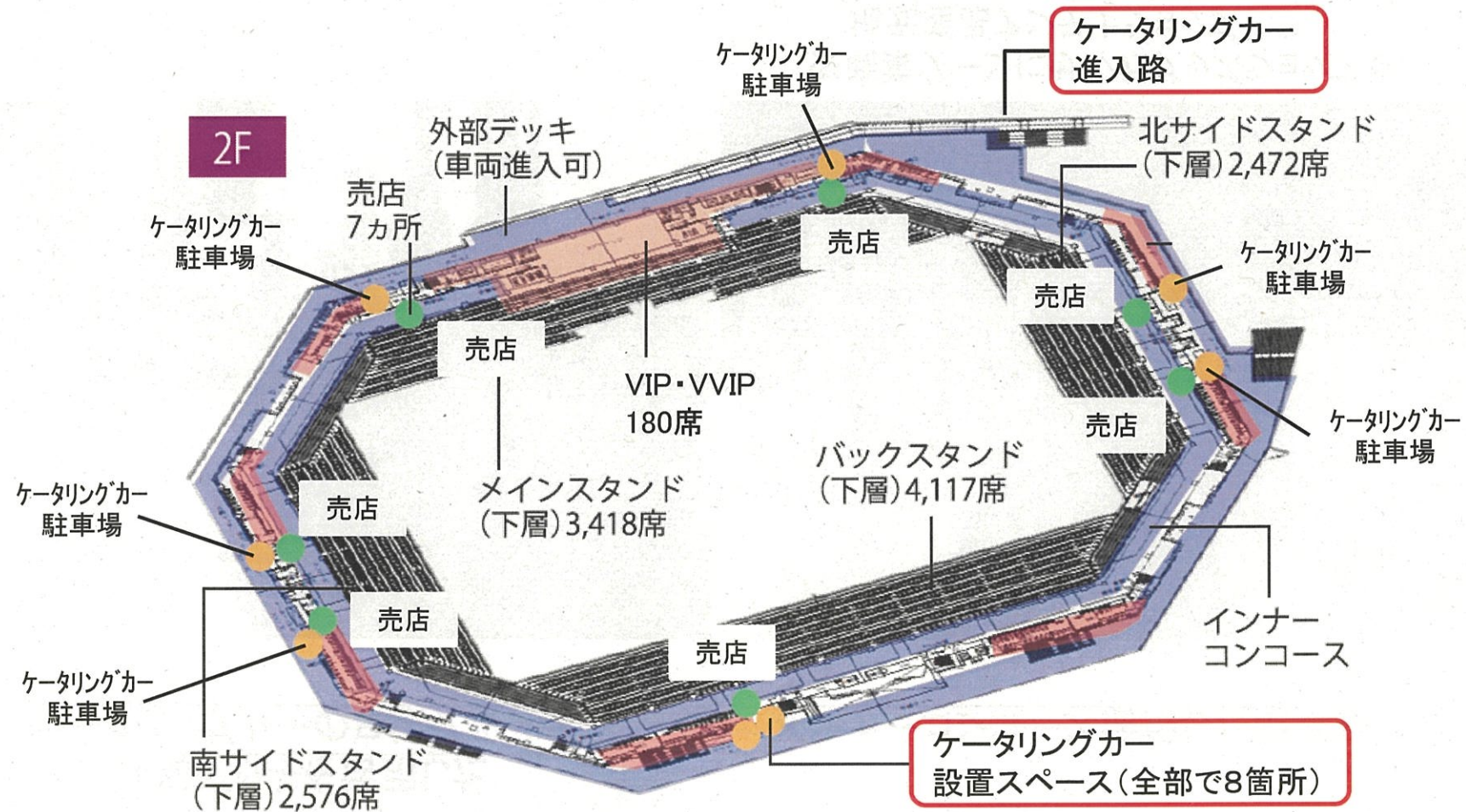
ティフトン(従来種)



実施設計への反映（良好なアクセス性）



実施設計への反映 「おいしい・温かい料理」「人気の高いグッズ」 その1)



区分	内容
インナーコンコース	約3,000㎡
VIP・VVIP席(180席)	480㎡
売店・ケータリング駐車スペース	15ヶ所

実施設計への反映（「おいしい・温かい料理」「人気の高いグッズ」 その2）

外部デッキを活用した ケータリングカーのB級グルメ市

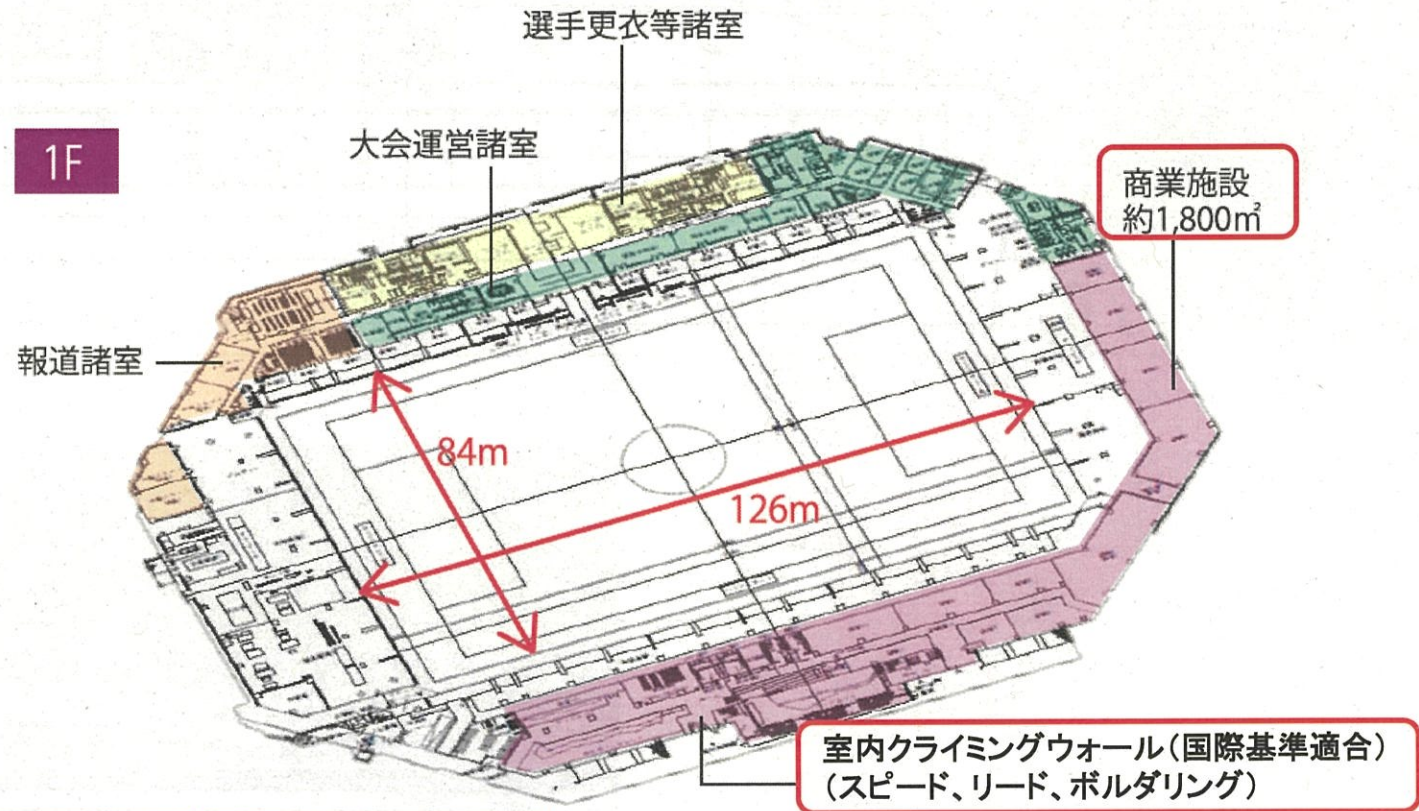


インナーコンコース活用した地域特産市



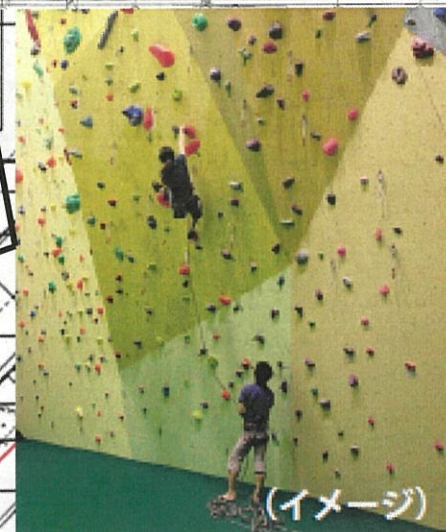
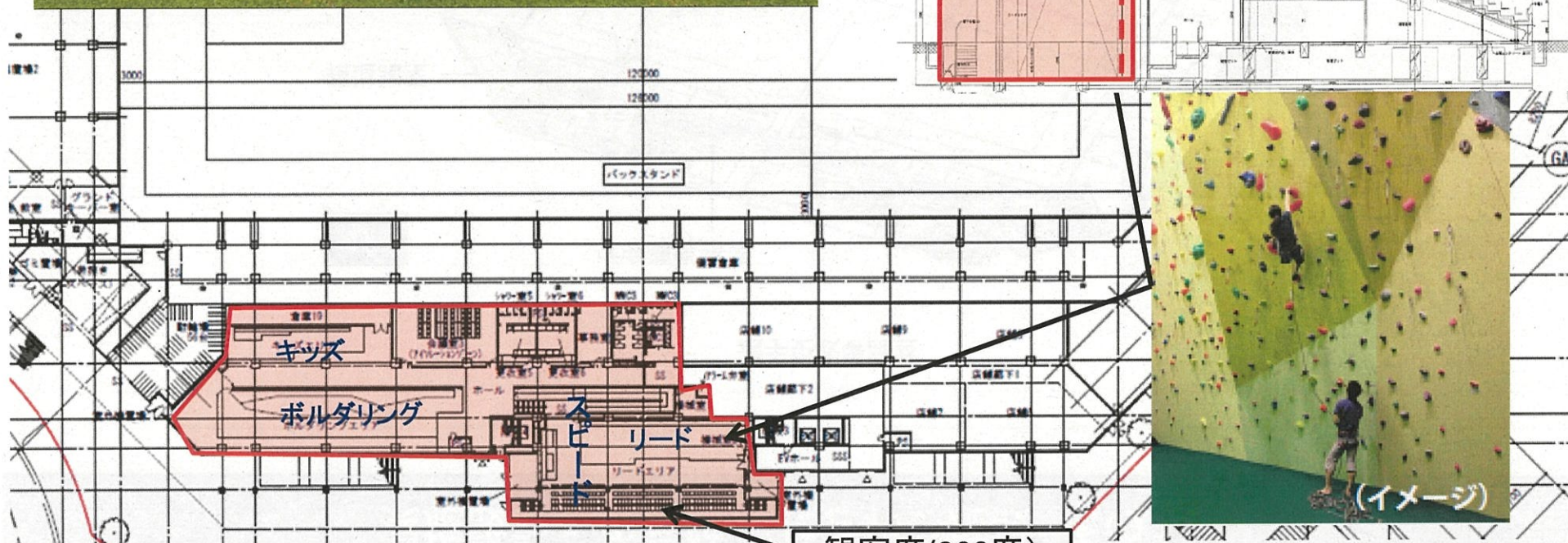
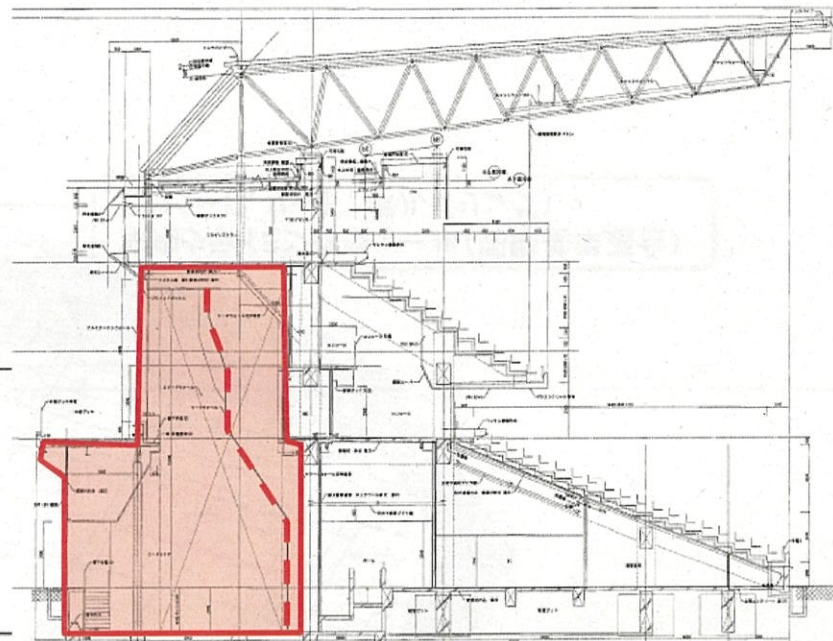
※商業ゾーンにサンガグッズショップや
地元産品アンテナショップ

実施設計への反映 (にぎわい施設 その1)

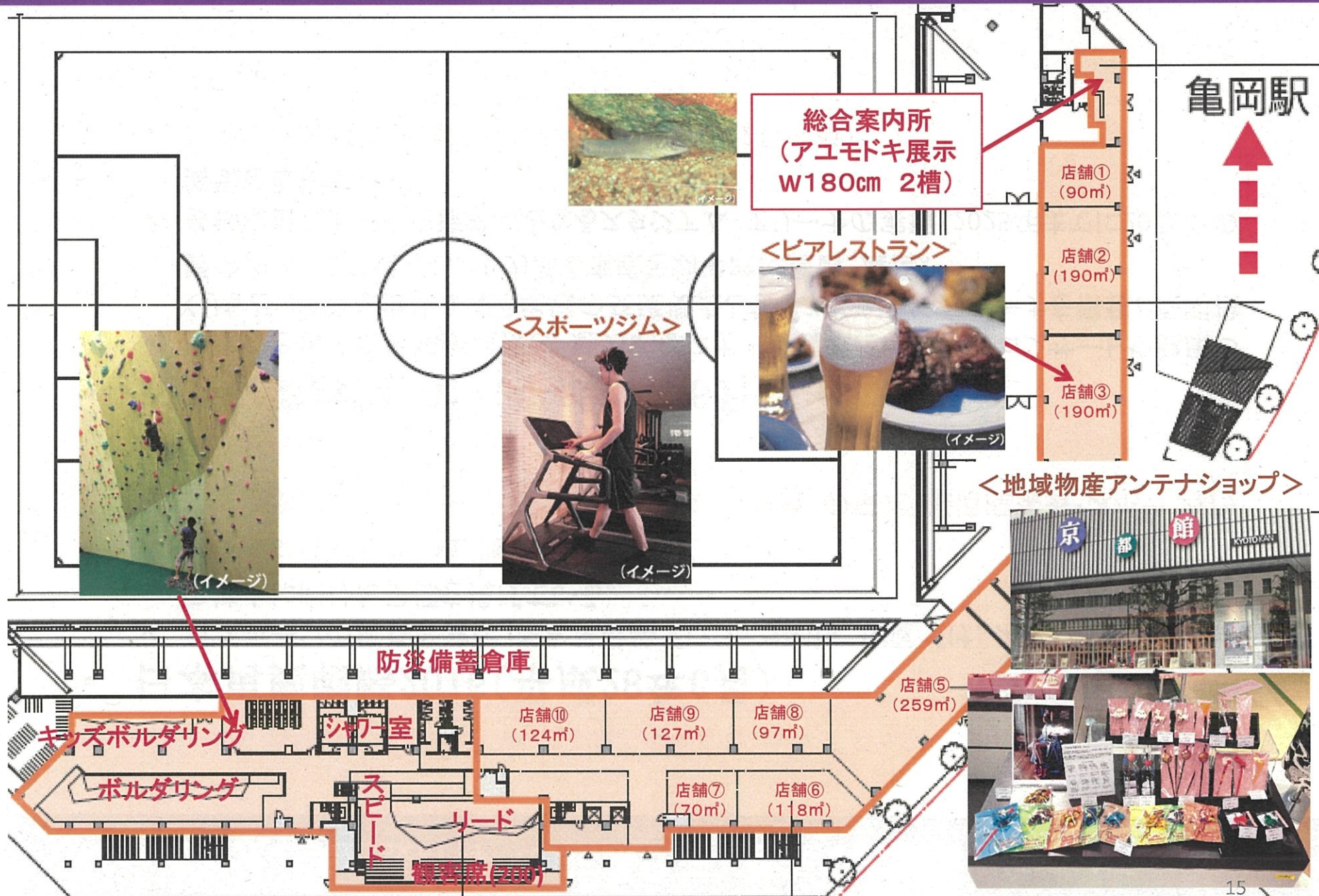


区分	内容
選手更衣等諸室	1,130(m ²)
大会運営諸室	1,070(〃)
報道諸室	730(〃)
商業施設(ゾーン)	1,800(〃)
クライミングウォール	1,000(〃)

実施設計への反映 (にぎわい施設:スポーツライミング その2)



実施設計への反映 (にぎわい施設:商業ゾーン その3)



2. 本会議意見の実施設計等への反映状況と最近の国の動向について

• 日本再興戦略2016(平成28年6月)

- ✓ 「スポーツの成長産業化」を官民戦略プロジェクト10に位置づけ、スポーツ市場規模の拡大に向けた目標を掲げている。
 - ⇒ 5.5兆円(H27)→15兆円(H37)
 - ⇒ スタジアム・アリーナ改革指針(平成28年11月)の策定(経済産業省・スポーツ庁)

• 未来投資戦略2017(平成29年6月)

- ✓ 自治体と地元企業等が連携し、魅力的なスポーツ観戦だけでなく、コンサートや健康づくりなど、多様な世代が集う地域の交流拠点となるスタジアム・アリーナを構想、民間投資やノウハウを活用し、魅力ある施設を効率的に整備・運営。
- ✓ 多様な世代が集う交流拠点となるスタジアム・アリーナの実現(2025年までに20箇所の実現を目指す)

※地域未来投資促進法の公布(平成29年6月2日公布)

2. 本会議意見の実施設等への反映状況と最近の国の動向について

・ スタジアム・アリーナ改革指針(平成28年11月)

- ✓ 「稼げるスタジアム」を目指しており、スタジアム運営事業が、継続的に周辺地域への効果(地域のシンボル、新たな産業の創出、スポーツによる波及効果を活かしたまちづくりなど)を発揮させ続け、将来世代に負担を残さないようにすることを目指す。
- ✓ スポーツを核とした周辺のエリアマネジメントを含む、複合的な機能を組み合わせたサステナブルな交流施設を目指す。「スマート・ベニュー」)



2. 本会議意見の実施設計等への反映状況と最近の国の動向について

今後のスケジュール

平成30年1月 建設工事着工

平成31年12月 完成予定

平成32年春 供用開始
(※年間を通してオープニングイベント実施)